昭和七年撮影

白石（須子）チトセ

惠子

弟・妹　二歳

謹みて皇軍戰捷の新年を御喜び申し上げます。お懐しいクラスの皆様。卒業致しまして最早一昔に達した様で御座居ますね。三、四年前の事の様に思つて居ましたのに……もう私の長女が、此の春で二年生になります。なんだか不思議な氣が致します。皆様各々良いお母様や奥様にお成りになつた事でせう。私事卒業致した年の終りに、現在の白石家に嫁ぎました。

運悪く間もなく主人は左足の病の爲、一年間病院生活を續け、その甲斐もなく切斷致しました。それが爲職に就かれず、いよ／＼困つてしまひました。今では二男一女の母として、老いたお姑さんと一緒に、馴れない百姓にせい出して居ります。私達クラスの中で、こんなにも悲しい境遇に落入つた者は、私より外には無いだらうと思ひます。併しこうなつてはどうする事も出來ません。唯子供の一日も早く成長して、立派な人になつてくれる事を、いつも神かけて祈つて居ります。

右の次第ですから、仕事に追はれ筆取る間も無く、クラスの皆様にとんだ失禮を致し、何共申し譯け御座居ませんでした。どうぞ御許し下さいませ。では嚴寒の折柄くれ／＼も御身御大切になさいませ。

一月十五日

篠原（三井）壽君子

智　七歳

一　二　三

五　歳

昭和十二年十月二十五日撮影

お懐しいクラスの皆様、お別れ致しまして早、一昔を迎へんと致して居ります。皆様には其後、如何お過しで居らつしやいますか。隨分各々お變りなさつた事と存じます。私もお蔭様にて、家事や子供の世話に日々を元氣良く過して居ます。風の便りかお聞きしますれば、懐しいクラスの皆様の中に、御他界遊ばされた方もおありとか、十年一昔、夢の間に流れたとは申せ、何と變つた事で御座居ませう。あ！あの方がと不思議に思はれる方ばかりです。『昨日見し人はと問はゞ今日は又、明日又誰か我を尋ねん』人事の様に思つて居りましても、何時自分に廻ります事ですやら、しみ〴〵考へますと此の世は假の宿です。貴い人間に生を受けた事を喜ばさして戴き、何時時雨が降つてもいゝよう、傘の用意を充分して、出來るだけ御國の爲に御報謝させて頂かうではありませんか。『踏まれても根力くもてよ道草のやがて花咲く春を待つらん』私達人生はこれからです。修養に修養を重ねて、短い人生を有意義に過し度いと存じます。感想の一端を。

十一月二十一日

昭和十二年十月撮影

主人
林（河原）壽子

昭和十二年十月撮影

和博　五歲
愼一郎　四歲

朝毎に庭に散り敷く落葉に、いよ／＼寂しい晩秋となりましたが、其後皆々様には御幸福な毎日を送つて居られますさうで、何よりお喜び申し上げます。何時も乍らの筆不精にて、心ならずも御無沙汰致しました事を、何卒お許し下さいませ。けれ共皆様の事は何時も憶ひ出します。制服の頃の昔を、昨日今日の様に思ひ出して懐しく偲ばれます。此度の御計畫は誠に結構なるお思ひ付きで御座居まして、十年來のお互の心を結ぶ絶好の機會でした。誌上を通じて皆様の御消息を得る事を、心から嬉しく存じますと共に、此の企てに日夜御盡力下さいました皆様の御苦心の程、誠に感謝にたへません。今後一層の御盡力を御願ひ申します。

私は現在博多に居住して、四歲なる二男と主人と三人で幸福に過して居ります。長男は父母が淋しがるので、小月の實家で幼稚園に通はせて居ます。同封の寫眞は、三人では何とやら申しますので、二人で思ひ付いたまゝに撮つたのです。笑はないで下さいませ。皆々様の御幸福をお祈りして止みません。

十一月二十一日

昭和九年十月末撮影

主人

昭和四年撮影

上田（竹田）信子

秋深くなり大變お寒くなりました。

クラスの皆様方には如何お過しで御座居ますか。平素は御無沙汰ばかり致しまして、申し譯け御座居ません。お許し下さいませ。私も二兒を連れて、毎日を忙しく樂しく過して居りますから、他事乍ら御休心下さいませ。

非常時の今日、當生田村にも七月以來、百人ばかりの出征軍人を出し、今日迄にすでに戰死なさつた方が八人も有り、遺族の方がお氣の毒で御同情にたえません。私方主人も今月廿日より五週間の演習召集がかゝりまして、いよ／＼お國に御奉公の秋が近づいたと申し、喜び勇んで應召致しました。多分主人も遠からぬ内に、出征致すのではないか知らと想像致して居ります。そうなれば私も軍人の妻として、こんな名譽な事は御座居ません。皆様の中にも私同様のお方がお有りと存します。お互に家業に勵み、子女を養育し、銃後の守りを固く致し、後顧の憂なき様につとめましようね。では皆様お寒さに向ひますから、御身御大切に遊ばしませ。

十一月二十四日

昭和十二年十一月三日撮影

主人
三宅（石津）郁子
清英
四歳

冷感を覺ゆる晩秋を迎へましたが、皆様には其後も御健かに御過しの事と存じます。常に多忙に事よせまして、意外の御無沙汰、何卒不悪御許し下さいませ。私達も御蔭様にて子供を中心として、惠まれた日を過して居ります。此度十週年記念として、アルバム作製をお思ひ立ち遊ばしました由、何よりも此の上ない記念になる事と嬉しく存じます。居乍らクラスの皆様とお逢ひ出來るなんて、全く素晴しい計畫ですもの。もう大部分の方は嫁がれて居らつしやる事でせうから、クラス會なんて一部分の人でなければ出來ませんものね。此の點本當に良い御計畫と喜んで居りますと同時に、其日を樂しみにペンを走らせて居ります。

最後に皆様の御健康と御幸福をお祈り申し上げます。

十一月二十七日

昭和十二年八月末撮影

木村（古本）テルエ

昇　二歳

其後皆々様には御機嫌うるはしくお過し遊ばされる御事と存じます、私も御かげ様にて元氣で子供を相手に、樂しく忙しく家事に追はれ乍ら、其日々々を過して居ります。

「子を持つて知る親の恩」と申しますが、母となつて始めて責任の重い事をつくづく感じます。良き母にならねばと、今の私には唯そればかりで御座居ます。

不精者の私は外出もめつたにせず、又手紙等一寸も出しませんので、皆様とは至つて御無沙汰勝ちで御座居ますから、此度のお企ては本當に嬉しく存じます。これは素人寫眞で至つて不細工ですけれどお笑ひ草までに。

では誌上クラス會の出來上りますのを、樂しみにお待ちして居ります。

十一月二十八日

昭和十二年十一月二十二日撮影

木村（竹中）ナツエ

一筆御免下さいませ。

今年もいつしか師走の聲を聞く樣になつて參りました。お懷しい皆樣、御機嫌如何遊ばされますの。お伺ひ致します。私もこの春女子を出產しまして、忙がしい中にも日々にすく〳〵成長して行く子供を、何よりの樂しみに元氣に過して居ます。毎日子供を相手に遊んで居ますと、あの無邪氣な學生時代に歸つて參りまして、皆樣が思ひ出されて懷しくなつて、いつか皆樣とお目もじ出來得ましたらと願つて居りました矢先、此の度の嬉しいお便り、有志の皆樣のお骨折りに深く感謝して居ます。この上は少しでも早く皆樣とお目もじ出來ます日を、一日千秋の思ひで待つて居ます。

では皆樣御健かにお暮し遊ばしませ。

十一月二十九日

昭和九年十月十六日撮影

主人

島田（村田）幸代

皆様お元氣ですか、御幸福ですか、十年後の皆様、とてもおかしこい事でせう。私恥し乍らまだ生きて居ります。そして次々に遭遇致します受難と戰つて居ります。然し最近の裁きに苦しんで居ります。どうぞお助け下さいませ。悲しい數々の運命も知らぬ子の、今又母と別れなければならぬ宿命の親子をお憐み下さいませ。廿七年間内科的に、わずかの缺陷も起りません穩かな體も、堪へ切れぬ惱みに疲れきつてしまひました。不健康なら早く死ぬ事も出來ましたでせうに、永く生きて笑はれ苦しみ、哀と云ふも哀な人間で御座居ます。

十一月三十日

昭和十二年二月二十八日撮影

島津（國貞）文子

明けまして御芽出度う御座居ます。

樂しいお正月も次第にうすれ、最早悲しい時代になりました。

皆様にお別れしましてより幾星霜、世に云ふ十年一昔、皆々様も色々とお變りになつて居らつしやる事と思ひます。平素は御無沙汰のみに打過ぎ申し譯けも御座居ません。あしからず御許し下さいませ。私事三人の母として毎日を忙がしく過して居ります。長男は本年より學校で御座居ます。皆様の内にはもう學校に行らつしやるお子さんもおありでせう。さぞお忙しい事とお察し致します。それ等を考へれば、何と云つても女學生時代が一番樂しい時代です。もう一度あの時代に歸つて見ればいゝ様に思ひます。自由に飛んだり遊んだり、今はそれさへ出來ず不自由な身となりました。皆様にお目にかゝつて色々なお話を伺ひ度いと、それのみ思ひ續けて居ます。どうぞ皆様ごきげんよろしく。お寒さきびしき折柄御身大切に遊ばす様御祈りして居ります。

一月十一日

昭和十二年十一月十五日撮影

母
主人
西尾（室岡）稍
隆太郎
三歳

冬籠り今宵は雨になりにけり

客も漕ぐ稲佐渡舟や春の潮

十二月十四日

昭和十二年十二月撮影

三　隅（東上）房　子

大變御無沙汰を致して居ります。
皆様御元氣で居らつしやいますか。
懐しい學校生活も一昔の過去となりまして、皆様も隨分お變り遊ばした事と存じます。私は此の十月男子を出産致しまして、四歳を頭に三人の母となりまして、それは〳〵賑かな心忙しい日を至つて元氣に過して居ります。
主人は小野田セメントに勤務致して居ります。社命により本年四月より、神戸商大に一ヶ年修學（選科生）致す事になりまして、神戸の方へ住居致して居りましたが、九月末召集受けまして急に歸郷致しまして、只今は下關要塞司令部に服務致して居ります。
軍國多事の折柄御國の爲に、少しでもお役に立ちます樣折つて居ります。
當地へ御越しの節は、何卒お遊びにいらつしやる樣お待ち致して居ります。
末筆乍ら皆様の御健康と御幸福の程をお祈り致します。

十二月十六日

昭和十一年八月二十五日撮影

町田(阪本)花枝

道子

五歳

第十六回卒業生クラスの皆様、お懐しう御座居ます。平素の御無沙汰御許し下さいませ。

皆様とお別れ申しまして早九年。本當に驚きました。何時までも學窓時代の氣分で暮して居りました私も、何時しか社會の荒浪にもまれ乍ら、色々の幸不幸の境遇に接して參りました。中でも最大の悲しい出來事に出逢ひました時は、自分の前途が一時に眞暗闇になりました思ひでした。でもそれも一時の氣の弱さからで、今は子供の爲過去四年前の出來事は何も彼も打ち忘れて、九年前の朗かな心でひたすら子供の成長のみ樂しみに、毎日父母と共に愉快に暮して居ます。

何卒クラスの皆様、昔より以上に深く〳〵御交際の程、宜敷く御願ひ申し上げます。

此の上は皆様方の御健勝と御幸福を蔭乍らお祈り申し上げます。

十二月十一日

昭和十年七月撮影

田中初音

庸子

一歳

大變お寒くなつて參りました。

其の後皆々様にはいよ／＼お健かに御過し遊ばす御事と存じます。降つて私事も以來御かげ様で元氣で、お恥し乍ら二人の子供の母となりました。以前は埼玉縣の方に參つて居りましたが、此の節では近い所に勤めさせて戴く事になりました。お懐しい皆々様と共に遊び、共に樂んだ頃の様に過す事は出來たくなりました。子供も成長致すにつれ、母もじつとしては居られずに、子供の利口な質問には喜んで正しい答をしてやるだけの修養が必要だとつく／＼感じられます。

では有志の方々の御熱心な御申し出に對し、お恥し乍らこの一枚を御覧に入れます。

御懐しき十年後の皆々様に御目にかゝれる日を樂しみにお待ち致し、皆々様の御健康を神かけて御祈り致します。

十二月九日

昭和十二年十二月撮影

山　口（木村）キ　シ　子

學窓を出まして早十年とか、夢の様な月日を私と同じく皆様も靜に打眺め、母校を懐しく思ひ出されます事でせう。

今度記念のアルバムによりまして、遠地の同窓の方とおまみへ出來ます事を、何よりの喜びと存じます。此の記念のアルバムによりまして、益々友情を深め、いつまでも〳〵十六回卒業生の皆様と共に、常に助け合ひ手を取りあつて、お互に責任ある家庭の人として、良き母として勵んで行かうではありませんか。

皆様の御健康をお祈り致します。

十二月十八日

昭和十年四月十五日撮影

小島菊江

十年一昔まあもうそんなにと思ふ刹那、學校時代の懐しさに頭は走つて居ます。この度皆様方の御様子が近々の内に伺はれますとは、實に〳〵嬉しい事と思つて居ます。私去年の七月末より大病にかゝり、大手術を致しまして入院を永らく致し、近頃やつと家にて養生して居ますの。何分思つた後故、思ふ事も意にまかせず、やつとこれまで認めました。

まだくわしく申し度いんですけれど、これで失禮させて頂きます。どうぞ皆々様の御健康並びに御幸福を御祈り申して、ペンを休ませていたゞきます。私の寫眞お笑ひドさいますた。

光線の具合でまるでお面を被つた様でせう。

一月十七日

昭和十二年七月二十日撮影

主人
池田（木津）順子

悦子　五歳
絢子　三歳

皆様

御機嫌如何で居らつしやいますか。私相變らずで御座居ます。あれから十年になりますなんて夢の様で御座居ます。まだこの間の様に思はれますのに。私は卒業式を前に皆様にお別れして參りました。この春の在京クラス會で、始めて一部の方にお目にかゝれますまで、どなたにもお會ひ出來ず、思ひ出の皆様にばかりお會ひしては、長府時代を樂しんで居りました。思ひ出の皆様は、あの時ともつとも變つて居りません。懐しい皆様です。私も變らぬ氣持ちで居りますけれど、二人のママになつてしまひました。でもつともママらしくなれませんの。小さいもの相手におこつてばかり居ります。こんな事ではと、殊に非常時の折柄思ひやられます。何卒このママ振りを御覽下さいまして、あはれと思召し御教育下さいますやう。では皆様のお姿を拜見出來ますのを樂しみつゝ。

十月十八日

昭和十二年九月二日撮影

主　人

草　場（鳥居）雪　子

お別れして九年、今更に過ぎ去つた年月の餘りにもあつけなく短く感じ、驚きを新に致して居ります。其後如何お過しで居らつしやいますか。此度寫眞クラス會なる名案が持ち出されて、其後の皆様のよきお母様、御奥様振りに接する日を樂しみにお待ち申し上げて居ります。

雨につけ風につけ思ひ起すのは、その上の制服の處女當時の友の俤……私事、皆様にお目もじの機會に惠まれませんでしたが、はからずも先日東京にてクラス會が催され、九人ばかり集りお話出來て嬉しく、友達のよさをしみ〴〵味ひました。お別れして以來の私は、至つて平凡にいたづらに年を重ねて、一昨年暮より主婦と云ふ立場にはなりましたものゝ、世界知らずのぼんやり者で、いまだに板につきません。近頃は號外に、ラヂオニュースに、胸を沸き立たせて居ります。一歩町に出ると千人針を乞ふ婦人の群が數多く、銃後の熱誠の程がしのばれます。殘暑の折柄皆様お大事に。

九月一日

昭和十二年八月一日撮影

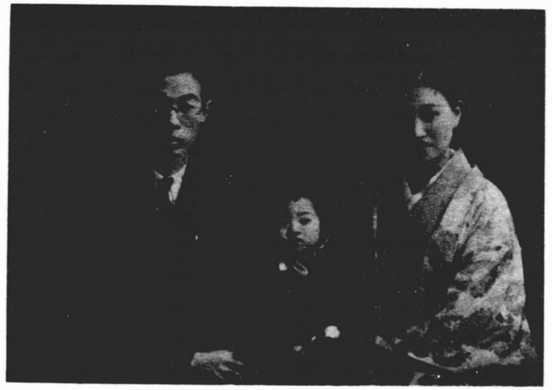
河村（三田）照子

素子

二歳

各地の皆様、お久し振りで御座居ます。御機嫌如何で居らつしやいますか。きつと皆様方には各々御立派な御活躍遊して居られます事でせう。卒業以來一昔とたらうと致して居ますとの事に、指折り數へてみますとやつぱり……月日の流れに關の戸はなくて等申しますけれど、餘りにも早くて、私有意義に何もなし得ませず、お恥しい次第で御座居ます。川崎に參り二年許りになり、大分慣れて參りました。主人は程遠からぬ味の素に勤務致して居ります。朝早く出て夕べ遲く迄務めて居ります故、昨夏生れの素子相手に毎日あくせくと暮して居ります。何分當地にはお友達はお一人も居らつしやらなくて淋しく思つて居ります。春の頃思ひがけなくクラス會が開かれ、久々に長府時代の雰圍氣にひたる事が出來まして嬉しゆう御座居ました。これからも幾年過ぎ去りましても、私達の特有の氣持ちは失はれない事と信じます。皆様にお目にかゝり度いばかりに、こんな寫眞をお目にかけます。御自愛專一に。

八月二十九日



昭和十二年十一月四日撮影

主人　長谷川（武永）靜代

彰子　二歳

懐しい學び舍を離れて、はや十年近くなりました。今更乍ら月日の立つのゝ早さをつく〴〵感じます。

皆々様、御機嫌よくお過しの事と存じます。

古郷を遠く離れては、行つて見度いと思ひましても、なか〳〵それも出來ず、長府でのクラス會の記事を拜見致しました時は、どんなに羨ましく思つた事でせう。それを五月にこちらで出來ました時の喜び、御想像下さいませ。そして今度の此の御計畫、喜んで參加させて頂き、お笑ひ草までに、まずい顏を並べさせて頂きました。相變らず昔のまゝの私です。この頃も元氣に毎日を仕事に追はれ乍ら、子供を相手に歌つたり笑つたり、時には怒つて見たりして暮して居ります。

今迄の御無沙汰、何卒これにてお許し下さる樣お願ひ致します。

では皆樣御機嫌よく。

十一月二十日

昭和十二年八月二十六日撮影

主　人

吉　野（高須）房　子

皆様御機嫌如何で居らつしやいますか、お別れして一昔、つく〴〵考へますと年を取つたものだな――と今更年ら吃驚させられます。お知らせが御座居ましたでしよ、東京でのクラス會の時の事、久芳さん、安部さん方のお骨折りにより、本當にとても愉快な半日を學生時代にかへつて隨分大騒ぎも致しましたし、お集りの皆様も、相變らず朗かな茶目な方達ばかりで、色々な思ひ出話に花が咲きました。お蔭様で私も前の儘元氣に過させて頂いて居りますけれど、今年の東京のお暑さには閉口致しました。其上今にもパンクしそうな體で御座居ましよ、何卒御察し下さいませ。アルバムの御妙案私第一に賛成致しましたくせ、實家の母が病氣になり其方に行きゝりでしたり、亡くなりましてからのごちや〳〵に取りまぎれて、御計畫にもれそうになりまして、失禮したら相濟まないと、大周章してペン取りましたの……生れ付き文才の無い私、これ位で御かんべんドさいませ。お氣でも向かれたら御便り下さいませ。御機嫌およろしく。

八月三十一日

昭和十一年秋撮影

主人　中村（河村）ヒサキ

リエ　二歳

弟

一昔つて云ふ言葉を二年の折に、國語の村岡先生にお習ひしましたわね。國木田獨歩の「忘れ得ぬ人々」の中の一節で、瀬戸内海の舟旅の事が書いてあつたと思ひます。その一昔が今丁度私達の間にも流れ去りました。

十年――そんな月日があつたかしらゝと呼つて見たくなる位早い年月でした。

いつ迄も女學生の頃のまゝの乙女心だと、自分では思つて居ますが、私もいつか一人の女の子の母となりました。初めて母になる頃、

春淺し田には山の花咲きぬ
ひとうら若き母とはなりて　　牧水

と云ふ歌を頻りに口誦んで、乙女と別れる感傷をなつかしんで見たりしましたが、その私も今では母の修行にも稍々馴れ染んで、子供も新しい年み迎へると四歳になります。

あの紺サージの制服み着て、校庭の櫻の下にもう一度佇んで見たいと思ひます。美しいクローバーに寝ころんで、あの長府らしいすみ渡つた秋空を、心行く迄眺ひたいと思ひます。パザーの食堂の樂しさも、喰ひしん坊だとお笑ひ遊はさないで、修學旅行の嬉しさも、皆様と御一緒なるが故の喜びでした。

一昔前の私達の様にもう一度――と皆様のお姿み慕ひ乍ら、一人で果敢ない空中楼閣を築いて居ります。

徒旬日の中に事多かりし昭和十二年も、水坑の彼方へと消えて行きます。新しい年と共に、私達のアルバムも美しく飾つて、皆様の姿をもたらしてくれる事と思ひます。嬉しさで胸もつぶれる思ひが致します。

では皆様、御幸多くゐらつしやいませ――。

附記　卒業後略歴

昭和九年四月――東京女高師家事科卒
同年　春――結婚・中村と改姓・岡山市に住む
昭和十年春――長女リエみ得
昭和十二年春――東京市へ移住す

十二月二十九日

昭和十二年一月六日撮影

久芳久子

女子大のお友達と

明日に九月の聲を聞こうと言ふのに相變らずの酷暑、これでも殘暑かと思はれる程の殺人的！此の暑さにもめげず、少年少女達の戸外で跳び廻るのを見て、自分の其頃の事を思ひ浮べ、何て年月を經たのだらうと思はざるを得ません。皆様の中には、此れ等の亂暴な私の少女時代の慾望を滿す相棒になられた方も大分おありだし、又現在は其等の方々も立派なお母様で、何共お祝ひの言葉も御座居ません。

此のアルバムが完成され、皆様の御様子を手に取る様に拜見させて戴く時には、亂暴第二世、お茶目第二世、おすましや第二世等、お母様達の俤を彷彿たらしめる坊やも多勢だらうと存じます。或は又親に似ぬ子とでも申しませうか、麒麟兒の存在もはたして幾何かと樂しみに致して居ります。

拙私の近況もお目に入れる事に致しませう。これはお友達のお宅で仲良くカメラに納まつた光景、何とでもお心のまゝ御批評下さいませ。皆様の御幸福と御健康を祝しつゝ。

八月三十一日

昭和十二年八月撮影

安部淺子

〝風にのせられた道化役者〟私の過ぎし其の後の動靜は、この一語につきるでせう。

朝鮮忠南道公州—一年
京　城—二年
大阪市外西宮市—半年
東　京—二年
京　城—二年
横濱市外日吉臺—四月
東　京—一年

長府へ—昭和十二年十二月より

放浪の先々で心からなる友に惠まれ、底拔けに樂しく、その岐路々々での別れに、消え入るばかり淋しい想ひを殘して來た事が、忘れ得ぬ旅での感銘の凡てです。何處まで行つても終生、アンコウらしいアンコウでしかあり得ないとか、私の人相が申します、

☆不法なると試驗に白紙つきつけし　かの結束は今も快よき
☆摘みつみしをばな圍みて山蔭に　夢を語らふをとめらなりし
☆三歩ゆき二足かへり一歩よけ　泣きつ笑ひつ尙行かん旅

十一月十六日

昭和九年八月二日撮影

貝島多美子

第五回クラス會報告の記

女三人寄れば姦しとやら、先達のクラス會は十四人も集つたので、全く物凄い位でした。例に依つておしやべり連中は相場が定つて居ますが、中でも斷然光つて居たのはキッチャン。安幸(アンコウ)も流石に顔負けで、〃キッチャンちゆう人は、はてからはて迄おかしい〃と敬服する始末。午前中は思ひ〳〵の話に花を咲かせ、やがてお晝ともなれば、時局柄一個五錢のパンをかじりつゝ、キッチャンの緣談話しに笑ひの洪水。×〃四國の見合ひはどうなつたン?!〃(キッチャン)〃どれかーん?餘り數あるそでナ〃(〃)見合ひばつかりせんと、なして早ういかんホ?〃(キッチャン)〃一長ありやア一短ありでナア〃と云ふ具合。餘り笑ひ過ぎて誰やらさんは〃米かみの邊が痛い〃とこぼす騒ぎ。午後からがいよ〳〵、本格的の底拔け騒ぎとなり、先づ「鉢卷き競走」から「銀貨廻し」「金盥たゝき」「豚のしつぽ」「お茶すゝめ」と休む暇なく進行し、「誰さんが」では「貝島さんが・馬の背中で・早朝・彼氏と・雖產をして泣いて居た」等の奇想天外な名文に爆笑又爆笑、「口傳似オーケストラ」に至つては、クライマックスに達し、「動物の名指し」では騒ぎ勞れたせいか、ポカンとした顏ばかり。最後は〃露營の夢〃のレコードに奇聲を張り上げて、部屋中をぐる〳〵廻り、萬歲を唱へて閉會したのは、定刻を過る事約二時間、宵闇迫る六時でした。

十二月二十日

姓名	嫁姓	現住所	頁數
朝原淺子	藤岡	山口市上立小路水ノ上　笠村氏方	九一
安部淺子		下關市長府町侍町　内田氏方	一一八
青木潤子		山口縣厚狹郡小野田町山手	六四
池田多榮	三澤	下關市長府町御船手	八二
泉　富子	上村	下關市宮田町三九〇　津田ッネ樣方	五〇
石津郁子	三宅	茨城縣土浦町千束町一二八〇	一〇〇
内田美子	田村	大阪府豐中市新免一〇九七	四三
上部君江		山口縣豐浦郡黑井村厚母鄕三五八	八九
大谷美佐子	清水	北鮮羅津府旭町一丁目二八ノ六	八一
河村ヒサキ	中村	東京市中野區大和町三六二	一二六
貝島多美子		下關市長府町侍町	一一九
梶山はま子		下關市長府町印内	四二
川崎マリ子	福本	山口縣豐浦郡田耕村	五九
河原壽子	林	福岡市博多御供所町四三　林重夫氏方	九八
河村澤江	井上	滿洲國鞍山北三條町七ノ三	四七
北村美津子		山口縣豐浦郡勝山村田倉	五四
木津順子	池田	横濱市神奈川區澤渡二三	一一一

木村キシ子	山口	京城府通義町三五　山口忠義氏方	一〇九
清中梅子	安積	山口縣厚狹郡生田村埴生　清中クマ樣方	六三
國司初子		東京市目黒區中根町一九四六	七三
久芳久子		東京市杉並區天沼三丁目六〇三	一一七
來見田英子		山口縣豐浦郡黑井村厚母鄕五四二	九三
楠ヨシ子	梅岡	山口縣豐浦郡內日村(下關市竹崎町七丁目四〇四)	五七
工藤靜江	三輪	山口縣豐浦郡勝山村田倉(戸畑市古池町四丁目五四八五)　工藤氏方	五八
國貞文子	島津	山口縣豐浦郡豐東村上大野	一〇四
小出文子	山本	下關市安岡町字中之町	六五
小島菊江		下關市貴船町大平山一號地	一一〇
小林ヒサ子	木本	滿洲國錦州省錦縣大馬路二丁目郵政局南宮崎組出張所	七九
阪本花枝	町田	山口縣厚狹郡小野田町公園通り　阪本藤吉氏方	一〇七
澤田富貴子	國弘	下關市長府町江下	四四
下田ウタ子		東京市目黒區下目黒三丁目四八九　松田久一氏方	七七
白石貞子	玉池	門司市葛葉二ヲ松五丁目　〃	三九
白砂貞子	登根	大連市近江町二九　永昌ビル三階八號	七一
清水ハルヱ		山口縣豐浦郡勝山村秋根(東京市麴町區三番町　鮎川義介氏方)	六八
須子チトセ	白石	山口縣豐浦郡王司村山田	九六

高須房子	吉野	東京市中野區大和町一八六　吉野病院內	一一五
高田晴惠		下關市長府町古江小路	六六
田北タヱ		福岡市下警固六軒家	七二
竹田信子	上田	山口縣厚狹郡生田村埴生	九九
武永靜代	長谷川	東京市荏原區中延町一二六八	一一四
竹中ナッヱ	木村	神戸市灘區五毛通り二ノ三　木村滿氏方	一〇二
田中きち		山口縣豐浦郡清末村	四五
田中五月		山口縣都濃郡下松町新町　戸田久夫氏方	八〇
田中初音		山口縣玖珂郡柳井町後地	一〇八
德永久子	竹本	下關市長府町江下	六〇
飛工滿子	祝尼	大阪府豐中市新免六九七	五一
鳥居雪子	草場	東京市杉並區和田本町八七三	一一二
東上房子	三隅	山口縣厚狹郡小野田町南中川	一〇六
中村サダ子	上村	山口縣豐浦郡川中村大字稗田六九二	四九
成定靜江	鶯海	東京市杉並區東田町一ノ五一	六一
長澤トキ		東京市麻布區三河台町二七　清泉寮內	七六
西島八重		下關市長府町惣社町	五五
西山貞		福岡縣鞍手郡宮田町大之浦　杉坂社宅	四〇

西岡シゲ子		山口縣豐浦郡豐田下村一九四	八七
新原松代	枝村	山口縣厚狹郡厚狹町	四一
濱田富子		下關市長府町金屋町	五三
濱田房子		下關市長府町逢坂	四六
濱野正子	宍戸	廣島市南觀音町二丁目六一八	六九
福田アヤノ		山口縣豐浦郡宇賀村六五二四	八八
福原正子	亀田	山口縣豐浦郡黑井村一ノ瀨	七八
布施キヌ	黑部	京都市左京區春日北通リ川端東入ル	四八
藤井千代	弘中	下關市上新地町	八四
古本テルエ	木村	山口縣豐浦郡小月町一四七〇	一〇一
古殿光子		下關市長府町南ノ町	六二
保高美惠子	藤野	下關市長府町黑門 保高氏方 （神戸市葺合區熊内町五ノ一四四）	五二
町田正子	有吉	小倉市城野驛前	五六
松村房子		下關市長府町先八幡	八三
松尾恒子		廣島市翠町一四九四	七〇
松村まさ	紙野	下關市貴船町一〇七一	六七
三上節子	森川	防府市中ノ關町新地	九〇
三田照子	河村	川崎市大島向耕地二二六	一一三

三原久枝	木下	山口縣豐浦郡小月町上市	九五
三井かつ子		山口縣豐浦郡豐田中村浮石	八六
三井壽君子	篠原	山口縣豐浦郡豐西村大字室津下七四一	九七
室岡梢	西尾	長崎市高平町一二〇	一〇五
村田幸代	島田	下關市後田町旭　村田氏方	一〇三
村田茂子	弘中	台北市京町二丁目三番地	七五
安澤芳子	内山	山口縣豐浦郡角島村字尾山	九二
山縣八重	長尾	東京市世田谷區下馬町二丁目一〇七八	七四
吉村壽子	大田	宇部市西區三炭町　岡村市場内	九四
綿谷敏江	一倉	山口縣厚狹郡厚狹驛前	
荻田フミ		山口市鰐石町　今村義雄氏方	八五

以上　八十二名

昭和十三年三月十日印刷
昭和十三年三月十五日發行

「十年」奥付

（非賣品）

編輯者　山口縣下關市大字壹浦村二七九三番地　貝島多美子

印刷者　東京市牛込區市谷臺町十番地　高梨由太郎

印刷所　東京市牛込區市谷臺町十番地　洪洋社寫眞印刷部

發行者　東京市世田谷區上馬町三丁目九七四番地　升谷春作

發行及頒布　長府高等女學校　第十六回生　同窓會